平成１８年度国際シンポジウムについて

これまで、「化学物質の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウム」は、平成 10 年度より毎年開催し、今回の釧路シンポジウムで第９回となり、全国の各ブロックで開催したこととなる。

一方で、小児等の環境保健に係る内外の最新の取組について情報を紹介するため、平成 14 年度より 4 回にわたり、「小児等の環境保健に関する国際シンポジウム」を開催してきている。化学物質に関連した取組については、今後統合して包括的な情報提供を行うことが、効率的かつ有用であると考えられ、今年度から、合同で開催することとする。

なお、開催の御案内については平成１８年７月１１日付き報道発表にて発表済み。

１．平成１８年度国際シンポジウム

第９回　化学物質の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウム、第５回　小児等の環境保健に関するシンポジウム

（仮）

化学物質の環境リスクに関する国際シンポジウム

～化学物質にどう向き合うか～

２．日時

平成 18 年 11 月 12 日(日)～14 日(火)

３．会場

釧路市観光国際交流センター

４．協力（8 月 18 日現在）

北海道、釧路市、北海道教育委員会、釧路市教育委員会、釧路市商工会議所

小児の環境保健に関する国際シンポジウムについて

＜概要＞

国内外の小児環境保健に関する先駆的な取組事例の紹介及び今後進めるべき研究領域等に関する意見交換等を行い、国民各層に対して普及啓発を図る目的で、平成 14 年度より「小児の環境保健に関する国際シンポジウム」を開催してきた。

＜経緯＞

（H14 年度）2003 年 3 月 11、13 日
第 1 回小児等の環境保健に関する国際セミナー（東京、大阪開催）

（H15 年度）2004 年 3 月 22～23 日
第 2 回小児等の環境保健に関する国際シンポジウム
（東京、順天堂大、日本衛生学会と共催）

（H16 年度）2005 年 2 月 24 日
第 3 回小児等の環境保健に関する国際シンポジウム（東京）

（H17 年度）2006 年 2 月 24 日
第 4 回小児等の環境保健に関する国際シンポジウム（東京）

平成 18 年度については「第 9 回内分泌かく乱物質に関する国際シンポジウム」（平成 18 年 11 月 12～14 日、釧路）のセッションの一つとして開催を予定している。

（仮）

第９回　化学物質の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウム、第５回　小児等の環境保健に関するシンポジウム

化学物質の環境リスクに関する国際シンポジウム
～化学物質にどう向き合うか～

１．概要

これまで、行政が実施している化学物質対策全般（環境中化学物質濃度の測定、化学物質のリスク評価、化学物質についての審査・規制等）にわたって、市民に行政の取組が十分に伝わっていないことや、市民の間で、化学物質の内分泌かく乱作用に関する概念が混乱していることなどが明らかとなった。

「化学物質の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウム」は、今回の第９回釧路シンポジウムで全国の各ブロックで開催したことになる。この中で、これまで子どもの健康について取り上げたこともあったが、一方で、小児等の環境保健に係る内外の最新の取組について情報を紹介するため、平成 14 年度より 4 回にわたり、「小児等の環境保健に関する国際シンポジウム」を開催してきている。化学物質に関連した取組については、今後統合して包括的な情報提供を行うことが、効率的かつ有用であると考えられる。平成 19 年度からは、より幅広く化学物質問題全般を扱うシンポジウムへと転換を図ることとする。よって、今回のシンポジウムにおいても、「化学物質のリスクをどう理解するか」、「子どもの環境リスクをどう捉えるか」といった内容を含める。

２．日時

平成 18 年 11 月 12 日(日)　14:00～14:30
開会式　　(参加者席：800)
14:30～16:00
パネルディスカッション
11:00～16:20(仮)　（招聘専門家対象）
野生生物保護センター、釧路湿原等スタディビジット

13 日(月)　9:00～16:00
国際セッション 1～3　（参加者席：300）

14 日(火)　9:00～14:45
国際セッション 4～5　（参加者席：300）

平成 18 年 11 月 12 日～14 日　パネル展示
展示予定：環境省、日本化学工業協会、地元自治体はじめ協力団体

３．会場

釧路市観光国際交流センター

４．協力（8 月 18 日現在）

北海道、釧路市、北海道教育委員会、釧路市教育委員会、釧路市商工会議所

５．広報

（１）広報活動

①ホームページ掲載（９月上旬予定)、広報紙への掲載

②ちらし・ポスターの作成・送付（９月中旬予定）

③プログラム・要旨集の作成・送付（１０月下旬予定）

（２）記者発表スケジュール

第１報　開催について（平成１８年７月１１日発表済み）

第２報　参加者募集（９月下旬予定）

第３報　プログラム・要旨集発表（１０月下旬予定）

（３）連携、協力

関係機関、教育、保健、地元事業者等環境部門、環境保護関係者等への周知

記者発表（環境省、北海道、釧路市）

６．参考

（１）これまでの開催地

第 1 回京都市、第 2 回神戸市、第 3 回横浜市、

第 4 回つくば市、第 5 回広島市、第 6 回仙台市、

第 7 回名古屋市、第 8 回那覇市

（２）関連行事

11 月 15 日(水)～16 日(木)　日米共同ワークショップ

（釧路市観光国際交流センター）

プログラム案（８月１８日現在)

11 月 12 日（日）～11 月 14 日（火）　パネル展示　環境省、北海道、釧路市、産業界等

11 月 12 日（日）

14:00～	開会式		
	主催者挨拶		
	協力者代表挨拶		
	来賓代表挨拶		
14:30～	パネルディスカッション		
	「化学物質にどう向き合うか（仮)」		
	司　会	池上　彰	（元 NHK 記者、NHK 週間子どもニュース司会者）
		眞鍋かをり	（タレント、交渉中）
	パネリスト	青山博昭	（残留農薬研究所）
		蒲生昌志	（産業総合研究所）
		北窓隆子	（環境省環境リスク評価室）
		福井行雄	（広島県立広高等学校）
		新庄久志	（釧路市環境政策課）
		調整中	（日本化学工業協会）
		調整中	（流通業界）
		調整中	（消費者団体）

11:00～16:20(仮)　スタディビジット(野生生物保護センター、釧路湿原等)

11 月 13 日（月）国際セッション

9:00～	セッション１	化学物質の影響をどうとらえるか ―国際的な取組―	
	コーディネーター	戸田　英作	（OECD テストガイドライン作業部会　議長）
	発表者	Michael J. Roberts	（Food and Rural Affairs,UK ）
		Leslie Tourat	(Environmental Protection Agency,U.S.A)
13:00～	セッション２	子どもの環境リスクをどう捉えるか ―大人との違い―	
	コーディネーター	佐藤　洋	（東北大学）
	発表者	内山　巌雄	（京都大学）
		岸　玲子	（北海道大学）
		海外招聘者	調整中
15:30～	セッション３	これまでに化学物質について何がわかったか ―内分泌かく乱作用に関する基礎的な研究の今―	
	コーディネーター	井口　泰泉	（岡崎統合バイオサイエンスセンター）
	発表者	John A. McLachlan	（Tulane University,U.S.A）
		Cynthia V Rider	（NHEERL Research Triangle Park,U.S.A）
		諸橋　憲一郎	（基礎生物学研究所）

11 月 14 日（火）国際セッション

9:00～	セッション４	化学物質のリスクをどう理解するか ―リスクコミュニケーションのあり方―	
	コーディネーター	小出　重幸	（読売新聞社）
	発表者	岩本　公宏	（日本化学工業協会）
		小若　順一	（暮らしと食品の安全基金事務局）
		中谷内　一也	（帝塚山大学）
13:00～	セッション５	野生生物への影響を評価するために何が必要か ―科学的な野生生物観察のあり方―	
	コーディネーター	濱口　哲	（新潟大学）
	発表者	酒泉　満	（新潟大学）
		鈴木　仁	（北海道大学）
		三浦　郁夫	（広島大学）

06.08.21

資料5－4

パネルディスカッションについて(案)

１．ねらい

化学物質に関する環境省の取組とその成果について情報提供を行い、「化学物質のリスク評価」をどう進めているかに焦点をあて現状を伝え、情報共有を図る。その上で、化学物質のリスクとどう向き合っていくかを、参加者とともに考えていく。

２．内容

環境リスク＝作用の強さ×ばく露量であるといったリスク評価についての説明や、作用を検証するための試験法の実際・問題点についての解説、ばく露量把握のための環境実態調査についての紹介を行い、その上で一般市民の代表からの疑問をもとに議論を展開する。

３．形式

市民とのコミュニケーション促進という実施目的を明確にするために、ステージ上に情報の受け手である一般市民の代表を配置し、専門家や担当者が一般市民の代表からの疑問に対して答えるという形式で進める。VTR 等を使用しつつ、分かり易くディスカッションしていく。

４．パネリスト構成（案）

●パネリスト	●一般市民の代表
青山　博昭	新庄　久志
蒲生　昌志	福井　行雄
北窓　隆子	・消費者団体
・メーカーのリスク評価/管理担当者	・流通業界

５．時間

１時間 20 分程度

（参考）

平成 16 年度、平成 17 年度パネルディスカッションについては、いずれも 70 分番組として NHK 教育テレビ放映された。

平成18年度第1回ExTEND2005リスクコミュニケーション推進検討会
06.08.21
資料5-5

H18第1回 化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会
06.07.10
リ-4-2 参考1

国際シンポジウム開催状況

	開催地	一般向けプログラム			専門家向けプログラム							
		特別講演	取組の現状	パネルディスカッション	基礎科学 作用メカニズム	試験法	生態系	人健康及び疫学	暴露・リスク評価	リスクコミュニケーション	取組の現状	その他
第1回	京都市	ロブ・ヴィッサー 森田昌敏	—	パネルディスカッション	作用メカニズム 内分泌攪乱化学物質とは	スクリーニング法	野生生物への影響	人への影響	毒性・リスク評価		各界の取組	
第2回	神戸市	—	—	パネルディスカッション	作用メカニズム Dose-response 基礎生物学と環境毒性学	スクリーニング試験 魚類の試験法	野生生物への影響	健康影響			日本での調査研究	
第3回	横浜市	シーア・コルボーン	政治と海外での取組み	「内分泌攪乱化学物質どこまでわかったか」	作用メカニズム 低用量問題	試験法	野生生物への影響	健康影響	リスク管理			
第4回	つくば市	ボーヤンセン	我が国の研究的取組み	「環境ホルモン21世紀・開かれたアプローチを目指して」	脳神経系機能発達への影響と作用メカニズム トキシコゲノミクス 構造活性相関	スクリーニング試験法	野生生物への影響	健康影響			海外の取組の現状	
第5回	広島市	堤治	国際機関(OECD、WHO等)や欧米の取組み	「環境リスクコミュニケーション」	免疫影響 甲状腺への影響 性分化		カエル	子供の健康	暴露評価 リスク評価			
第6回	仙台市	グレン・ファンデルクラーク	我が国の研究的取組み	「内分泌攪乱化学物質問題における政治の役割」	基礎科学		野生生物	人健康影響 評価基準	暴露		海外の取組	
第7回	名古屋市	養老孟司	SPEED'98取組の成果	環境ホルモン問題をどう伝えていきますか	基礎科学		野生生物	人健康影響	暴露	リスクコミュニケーション		今後の研究の方向性
第8回	沖縄市 宜野湾市	ー	展示 ExTend 2005	天然のホルモンはどうなっているのか	作用メカニズム	試験法開発	野生生物	疫学	リスク評価	リスクコミュニケーション		

(案)

第9回	釧路市	ー	展示 ExTend 2005 (予定)	化学物質の環境リスクにどう向き合うか	基盤的研究	OECDでの取り組み	野生生物	小児保健		リスクコミュニケーション		